

は し が き

本センターの研究ジャーナルである総合保健体育科学第2巻の発刊をみることとなった。この研究ジャーナルは本センターにおける研究活動の成果を公にするとともに、保健体育科学の新しい科学としての蓄積をねらいとしたものである。したがって、この研究ジャーナルは原著論文を主体としているが、併せて各巻の発刊年度の一現在は年一回としているので一本センター関係者の研究活動を、公刊されたものなどについて題目、著者名等を簡略な様式ではあるが、記載することとしている。

第2巻には7編の原著論文を集録したが、かなり基礎的なものから応用的なものまで含まれており、本センターにおける研究活動の中を示すとともに、わずかながら1巻よりは本センターの研究の特性といったものがうかがわれるように思われる。それは本センターでは研究対象や研究方法等の違いはあれ、人間の豊かな生活体としての存続の保証を、実践的方法を含めて究明するとともに、これを生活プログラムにまで位置づけることをその研究のねらいとしており、論文の多くにそれがうかがわれるからである。

本センターの現在の研究体制は、保健科学部3分野（保健管理、精神衛生、学校保健）、体育科学部5分野（体育学、体力科学、身体運動学、体育文化、社会体育学）と、8分野制をとっている。かかる体制としたのは、従来ともすれば研究の閉鎖性につながるのと評を受けがちな講座制を避けつつ、しかも研究の進展にともなう分野別研究の独自の展開への配慮と、これら8分野が新しい科学としての保健体育科学を指向するにあたって、欠くことのできない最小限の構成要素の支柱であると考えたからである。したがって本センターにおける分野別研究は、その分野としての専門的啓発を充足するとともに、保健体育科学として integrate される内容のものであることが望まれて

いる。

ところで、こうした内容の研究は体制と研究者の努力に加えて、機関として、また、いくつかの分野の協同としてのプロジェクト研究の推進と、少なくとも数年にわたる研究の継続があって初めて具体化されるものである。本センターでは研究施設・設備の充実とも相まって、積極的にプロジェクト研究を組織化するとともに、個々のテーマを加えてその研究の継続化を推進している。

現に本号掲載論文の「肥満学生の保健管理に関する研究」はプロジェクト研究の1号といえるもので、栄養面や運動面からの生活指導を加えた、新しい保健管理の具体化を意図したものである。また、「中学・高校生の持久走力と Aerobic Power との関係」は幼児から成人にいたるまでの Aerobic Power に関する縦断的研究に関わるものである。

本センターでは53年度から、センターの機関的規模でのプロジェクト研究として、新たに現代人の健康管理の主課題の1つである、循環系疾患の誘発要因について、体力科学的ベースからの予知と予防に関する研究を開始した。意図するところと具体的な研究との間には研究者の能力を加えてまだ大きな隔りがあることは否定し得ない。しかし、少しオーバーないい方になるが、この種の研究と正面から取り組めるのは、本センターの機関と研究体制において初めて可能なように思われる。

かかるプロジェクト研究の成果も加え、本研究ジャーナルを巻を追ってより充実した独自性ある内容の研究誌として育成したい。改めて関係者や多くの、この方面に関心ある研究者の御協力、御叱声をお願いするものである。本センターの研究活動にかかわる一端を紹介し、総合保健体育科学第2巻のはしがきとした。

昭和54年3月

名古屋大学総合保健体育科学センター長
松井秀治